

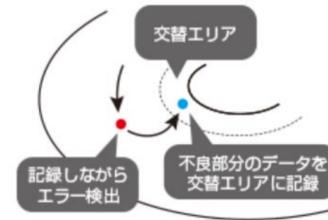
DefectManagementForArchive機能の設定に関して

■DMA (Defect Management for Archive) とは

ブルーレイに標準搭載されているDM (Defect Management) 機能の閾値を、JIS Z 6017相当に高め長期保存を可能にしました。
この機能によりJIS Z 6017準拠要件では無いが、それに近い水準の長期保存を実現させたい方への特殊機能。

専用のドライブとディスクの組合せ

DMA機能をONにすると、ドライブは記録とエラー検出を同時に行います。エラーを検知すると予め確保された交替エリアに記録を代替します。
この代替によりデータを補完する事で、全てのデータを安全に長期保管する事が可能となります。



■下記のドライブとディスクの組合せにてDMA (Defect Management for Archive) 機能をご使用になれます

◀ ドライブ ▶

- ・BDX-PR1MAシリーズ (パイオニア)
- ・BDR-PR1MCシリーズ (パイオニア：生産終了)
- ・BDR-PR1MAシリーズ (パイオニア：生産終了)

◀ ディスク ▶

- ・PDBF25RSJP (BD-R SL/25枚スピンドル：三菱ケミカルメディア)
- ・PDBF25RDJP (BD-R DL/25枚スピンドル：三菱ケミカルメディア)
- ・PDBF25RTJP (BD-R TL/25枚スピンドル：三菱ケミカルメディア)

※事前にライティングソフトがDM (Defect Management) に対応している事をお確かめください。

例) Power2Go8 (サイバーリンク)、Windows 7~10のライティング機能はDMに対応してます。

■DMA (Defect Management for Archive) 機能の設定について

①DMAに対応したドライブに未記録 (未フォーマット) のディスクをセットします。

②DM (Defect Management) 対応のライティングソフトを立ち上げます。

Power2Go9の例

※Windows 7~10は設定の必要がありません。

(Windows 7~10にてDM (Defect Management) 機能をOFFしたい場合は別途ご相談して下さい。

・記録時の「設定/情報」タブで、下記の2か所の設定を実施してください。

